

SSKO

社会福祉法人 はらからの家福祉会

われら同胞

NO.48



☆☆☆ 目 次 ☆☆☆

- 2 p 新年のご挨拶
- 3 p 精神保健福祉講座報告
- 4 p プラッツ旅行報告
- 5 p 合同ソフトボール大会報告
- 6 p 賛助会コーナー

謹賀新年

皆様、新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、はらからの家福祉会の諸事業に對しまして、皆様の温かいご支援とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

昨年10月26日をもって、前任須長靖夫より引き継ぎ、わたくし藤田英親（おじたひでちか）が、はらからの家福祉会の理事長を拝命いたしました。もとより微力ではございますが、当会の事業が国分寺の地域福祉推進に役立つよう、一層努力いたす所存でございますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

昨年11月の精神保健福祉講座では前理事長の須長靖夫さんと伊藤順一郎先生の対談企画を行い、大変ご好評をいただきました。お二人それぞれの人生と社会の流れ、精神医療・障害福祉の変遷など、様々なことが交錯して今のお二人がここに

あるのだなと聞き入りつつ、聴衆の皆さんも、お一人お一人がそれぞれ時代の流れの中を、それぞれの人生を歩みながら、様々な縁に導かれてここに集まっているのだなと感慨深いものがありました。

この対談の中で話された、現状に對しての怒りを動機にしつつも、敵対するのではなく、いかに仲間を増やしてい



るかが大事だ」という言葉が強く心に残っています。昨年は相模原の凄惨な事件が起きました。フィリピンやアメリカの大統領選などをみても、世界に分断と偏狭の北風が強まっているように感じます。こういう時代だからこそ、様々な縁を大事にしつつ、

包摂と寛容の日差しで地域社会を暖めていきたいと、年頭に於たつて決意を新たにしております。

皆様のお力をお借りしながら、国分寺の地に暖かい地域社会を育んでいくために、当法人としても引き続き全職員挙げて邁進していく所存です。

末筆ではございますが、本年が皆様にとりまして幸多き一年となりますよう祈念し、私の新年の挨拶とさせていただきます。

二〇一七年元旦

社会福祉法人はらからの家福祉会

理事長 藤田英親



第30回精神保健福祉講座報告

～『精神保健医療福祉の今日と課題に向かう視点と姿勢』～

平成28年11月27日に第30回精神保健福祉講座を行いました。本講座は様々なテーマで、広く市民の方々へと精神保健福祉について一緒に考える機会の場合として年1回開催しております。

地域に精神保健福祉の思潮を浸透拡大させること」を目標に回を重ねてきた本講座も、皆様に支えられて第30回という節目を迎えることができました。深くお礼申し上げます。

今年には『精神保健医療福祉の今日と課題に向かう視点と姿勢』というテーマを置き、それぞれ違った形で精神保健医療福祉に取り組んでこられた、その中を歩んでこられた方々に語っていただきました。

主企画は、伊藤順一郎氏(メンタルヘルス診療所)つぼふあーれ院長・認定NPO法人地域精神保健福祉機構コンボ共同代表)と須長靖夫氏(国分寺障害者団体連絡協議会会長・国分寺あゆみ会前会長、現役員)の対談。お二人の精神保健医療福祉との出会いやその後の取り組み、考えや思いを、お二人の人生を少しなぞるような形で語り合っていました。本企画の対談では、お二人がスイッチしながら、相手への関心から質問や感想を繰り返すことによって、過去、現在と、お

互いの人となりや深め知っていく…そしてその中で参加者と共に今回のテーマを探り、未来へと繋いでいく…ということを図った形式をとりました。私たちにとても新たな取り組みで手探りのところもありましたが、アンケートの回答では「こういう形式の講座は初めてだが、お二人の意気込みがよく伝わり、分かりやすかった」未来へ繋げられる話だった。私にもできることを一つひとつ大切にしていきたい」といった声をいただき、お二人の対談を通して、ご参加いただいた皆様にとつてのこれからについても考えていただけるような機会となったのではないかと思います。

そして、小澤壽江氏(都立多摩総合精神保健福祉センター)広報援助課アウトリーチ担当より、アウトリーチによる支援の実践報告をしていただきました。地域生活を支えていくうえで、その方の生活現場に直接伺い個別のサポートを行うアウトリーチが大きく注目されています。小澤氏からは実践の中味や課題、今後の方向などについて話していただきました。また、黒木紀子氏(国分寺すずかけ心療クリニック・ピアスタッフ)に、指定発言をしていただきました。近年、当事者の

方々によるピア活動は多様な支援の現場での実践へと広がりを見せております。市内で支援活動されている黒木氏の経験から、また当事者として、切なる思いを話していただきました。

アンケートの回答に、様々な立場の方から話を聞いて良かった。自分の地域についても考えたい」という声を複数いただきました。精神保健福祉について、ご参加の皆様が、…では自分の立場からはどう捉えるか、どう考えていけるか…そんなことを思っていただけなら、本講座を開催している私たちにとつてこんなに嬉しいことはありません。

講師の方々を始めご協力頂いた皆様、当日足を運んで頂いた皆様に改めてお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。



フラッツ栃木 泊旅行



宿の前で全員集合～！

ました。

11月16日、17日に第18回フラッツ旅行として、栃木県の日光・那須塩原に行っていました。

1日目、日光に向けて出発しました。道中バスの中では、過去に日光に行ったことがあるか、今までの旅行で行った場所・紅葉は綺麗か等、様々なお話をしていました。特段と車内を飛び交っていたのは昼食が待ち遠しいといったお話でした。そのような会話がされるなか、バスは徐々に日光へと進んでいきました。栃木県附近に近づくにつれて、紅葉が綺麗という声が聞こえてき

ました。日光に到着してまずは昼食を磐梯日光店にて「栗おこわ葵御膳」を食べました。昼食を終えた後は、日光東照宮へと向かいました。平日とはいえ世界遺産であるため混雑が予想されましたが、混雑は程々であり、ゆっくりと参拝することが出来ました。日光東照宮は現在修復中であり、眠り猫や三猿はレプリカとなっていました。これも中々見ることが出来ないものでした。陽明門は修復中で囲いがあり残念ではありましたが、彫刻の細部に目を向けると、そのどれもが逸品で、一つ一つの技術や彫刻が華美であり感銘を受けました。

日光東照宮を観光した後は、いろは坂を経由し華厳の滝・中禅寺湖を目指してバスは出発しました。いろは坂は登りと下り合わせて48の曲がり角から成り、道路両側に木々が立ち並んでいるため紅葉が綺麗でした。見ごろではありませんでしたが、徐々に葉が落ち始めていたので、ちょうど良い時期に行くことができたのではないのでしょうか。華厳の滝は標高が高いこともあり、

息が白くなる程の寒さでした。毎秒1トン流れ落ちる大瀑布は圧巻で、皆さんその大迫力に圧倒されました。滝壺に落ちる水の音を聞きながらマイナスイオンを浴び、リラックスすることができました。その後はすぐ隣の中禅寺湖に参りました。時刻は黄昏時で、水面にうつる陽の光が綺麗でした。

初日の観光を終え、いよいよ旅館へと到着しました。旅館へ到着し一息いた後は皆さんお待ちかねの夕食。目の前に並ぶ豪華な料理を皆で一緒に美味しく食べました。夕食後はカラオケへと移動し好きな歌をそれぞれ歌いました。カラオケが好きな方が多く、とても盛り上がり、踊りを踊り出す方



3人で三猿の真似！



豪華な夕食を美味しく食べました～！

もいらっしやいました。2日目、千本松牧場に向かう途中、紅葉を見に吊り橋やお寺に立ち寄り、景色豊かな自然を満喫しました。千本松牧場に到着すると、お昼ご飯やアイスクリームを食べたりお土産を買ったりとゆったりと過ごすことができました。

今回、職員4名、ボランティア1名、メンバー7名の計12名での旅行となりました。両日も天候に恵まれた為、良い旅行日和となりました。旅行当日はお互いに共感・楽しみながら参加してくださいました2日間だったように思います。なにはともあれ無事に旅行をすることができて本当によかったです。

すずかけ心療クリニック・はらから合同ソフトボール大会



10月21日（金）にけやき運動場でソフトボール大会を行いました。
すずかけ心療クリニック対はらから合同チーム（グループホーム・フラッツ・さつき）の対戦。
・・・結果は 8対13で すずかけ心療クリニックの勝利でした。
青空の下で思い切り身体を動かし、とてもいい大会でした。



とばすぞ〜！！



どっちもがんばれ
〜！！



試合結果
8対13でした♪



はらからの家福社会賛助会コーナー

はらからの家福社会賛助会は、社会福祉法人はらからの家福社会の運営の維持・発展のために支援・協力することを目的として、主に財政的支援・協力の活動を行っています。

当会の趣旨にご賛同いただける方の入会をお待ちしております。会費は年間1口2千円からで何口でも可能です。会員の皆様には「われら同胞（本誌）」を送付しているほか、年に一度懇談会を開催し、会計報告・活動報告を行っております。皆様の会費は毎年取りまとめてはらからの家福社会に寄付させていただきます。

入会を希望される方は、下記口座に会費をお振込ください（同封の振込用紙も使えます。）

郵便振替口座番号

00180-8-130179

加入者名：はらからの家福社会賛助会

会費を納入いただいた方の名前を本誌に掲載させていただきます。

匿名希望の方はその旨通信欄にお書きください。

<平成28年度8月から10月の間に賛助会費をご納入頂いた皆様（順不同 敬称略）>

相澤 和美 朝倉 さく 石井 正義 伊藤 孝子 奥澤 佳子 小林 和代 坂田 晴弘 須長 三郎
濱野 信一 平松 史朗 山崎 昌子 山田 正則 町田 三代子 松本 紀久代 匿名1名

はらからの家福社会ホームページ

<http://harakaranoie.com/>



あけましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしく

お願い申し上げます。

われら同胞編集委員一同

【編集人】

社会福祉法人はらからの家福社会

〒185-0021

東京都国分寺市南町 3-4-4

TEL 042-323-5637

FAX 042-328-3240

E-Mail harakara@jcom.home.ne.jp

【発行人】

障害者団体定期刊行物協会

〒157-0072

東京都世田谷区祖師谷 3-1-17-102

【定価】¥120

